

2021年度 FD 講演会・FD ワークショップ要旨

日 時： 2021年10月5日（火）10:50~12:30

場 所：オンライン（Zoom）（配信会場：白金校舎本館10階大会議室）

1. 今年度のFD講演会・FDワークショップについて

【開会の挨拶】

- ・今回のFDワークショップは、各学部のFDの取り組みの発表
- ・本ワークショップは、第1回FD・教員評価検討委員会に承認されている。
- ・本ワークショップの目的は、FD活動の活性化のために、各学部独自の取り組みの共有

2. 各学部の発表

- ・配布資料のある学部については発表時にzoomのチャット欄に添付
- ・配布資料は、必要に応じてダウンロード
- ・各学部、発表5分、その後に質疑応答5分を予定 終了予定時刻は12:30
- ・今回のFDワークショップは、各学部のFDの取り組みの発表
- ・本ワークショップは、第1回FD・教員評価検討委員会に承認されている。
- ・本ワークショップの目的は、FD活動の活性化のために、各学部独自の取り組みの共有

・文学部

テーマ「文学部の学科課程のFD活動報告」

発表者：石井教職課程主任

・英文学科のFD活動：全教員を対象としたFD活動3回、その他ワーキンググループでの活動を実施

① 5月12日：学科内で今後のFD活動について検討。

② 6月2日：1、2年次GTEC結果の報告と分析

③ 7月7日：オンライン授業の問題点やアイデアの共有と検討

その他、横浜開講科目の基礎演習の改善に向けた将来構想員会（若手の教員を中心として構成される小委員会）での検討や、英語基礎科目を担当としている英語ネイティブスピーカーを主な対象として授業運営に関するFD活動を行った。

・フランス文学科のFD活動：カリキュラム改革に関するFD活動を実施

① 4月2日：2年次必修の「基礎研究」に関する検討。コロナ後のオンライン授業のありかたについて議論し、今後大学にも働きかけを行う予定。

- ② 6月2日：2019年度から実施している「1年次学年末クラス分け試験」の昨年の試験結果をもとに、学生の学習成果を分析し、今後に向けての教授法を議論。

・芸術学科のFD活動

- ① 5月12日：学科内で今後のFD活動について検討。イベント・読書会などの提案がされた。
- ② 5月31日：総合芸術学コースを将来的にどのようにするか、意見交換。
- ③ 6月2日：秋学期以降の授業形態について、オンライン授業をどのように考えるかについて意見交換。
- ④ 7月7日：自己点検チェックリストについて検討

・教職課程のFD活動

- ① 4月7日：昨年度の授業評価の検討、春学期の授業形態等について検討
- ② 5月12日：昨年度の教職課程の授業評価講評、今年度のFD活動について検討
- ③ 6月2日：コロナ禍における教育実習への対応、教職課程の3ポリシーの検討。
- ④ 7月7日：春学期の授業の振り返り、来年度の教育実習等のクラス数の検討
- ⑤ 7月28日：来年度時間割の検討、文科省から要請のあった新科目の情報教育に向けた調整。

質疑応答：

- ・今後のオンライン授業の活用に関する意見はどのようなものがあったか？
- フランス文学科：将来的にオンライン授業を一部実施できるとなった場合には、戸塚キャンパスに教員が集まることができないため実施できなかったリレ一授業を実施できると期待している。

・経済学部

テーマ「経済学部春学期の試みについて」

発表者：佐々木経済学部長、齋藤経済学科主任、西村経営学科主任
生方国際経営学科主任

・経済学科のFD活動：2回のFD会議を実施

① 初年次教育について

現行カリキュラムにおける初年次教育の課題と改善点について、ディスカッションを行い、以下のような意見が得られた。

- 1) 近年、科目数が増加しているが、ローテーションが崩れると非常勤講師の確保も大変であり、学生がこちらの意図通りに履修しているわけでもない。
- 2) 基礎演習のような少人数授業は喜ばれてはいるが、全員が受講できているわけでもない。一方で入門ミクロ・マクロ経済学は必修だが受講生が非常に多く、教育効果も疑問であり、設備も快適とは言えない。
- 3) 英コミの授業が資金的な問題から午後にはみだして実施されているため、学科科目を置くことができなくなっている。
これらの改善のため、オンライン授業を部分的に取り入れる、科目の整理を行うなどの対応策を引き続き考えていく旨、合意された。

② グローバルスタディーズコースの教育について

本学科の 3 コースの中で、グローバルスタディーズコースは学生数が多かったが、近年はコロナ禍もあってやや減少傾向であるという問題意識が共有された。そのうえで、今後の人事は、現担当者の授業をそのまま引き継ぐのではなく、本コースの特性を踏まえてどういう科目を担当してもらうか考えてから、公募をすべきであるという旨、合意された。

・経営学科の FD 活動

- ① 5 月 12 日：「授業評価アンケートの得点上位者の授業実施方法を参考に、授業の向上を図る。」との昨年度の FD 活動での合意を受け、総合企画室企画課より得点上位教員のデータを入手し、FD 活動としてどのように取り組めば効果的か、具体的な実施方法について議論した。授業評価アンケートの得点上位者からレクチャーを春学期中にオンラインで実施する旨、合意された。
- ② 6 月 9 日：他大学が各授業でどのような取り組みを実施しているか、またそれが学生からどのような評価を得ているかについて理解を深めるため、学生による授業評価結果について全教員が評価・改善の報告書を提出することを義務付けられている南山大学の事例を基に FD 活動を実施。教員による報告書の作成および提出は、少なくとも本学の現状には適さないとの意見が大半であった。また、「非常勤講師選定の際、この報告書により誤った結果を導く恐れがある」との懸念も表明された。
- ③ 7 月 7 日：授業評価アンケートの得点上位者からのレクチャーを実施。ディスカッション型少人数授業では、文献検索の方法や論文執筆の際の注意点、報告資料の作成方法等を Teams 等で画面共有し、担当教員が実際に行ってみることで、学生が自律的に実行できるよう工夫されていた。大人数講義科目では、アクティブラーニングを効果的に行うために、適

宜グループアウト機能を活用することで、学生が発言しやすい環境が作られていた。

・国際経営学科のFD活動

① 必修科目の教員同士の授業参観を実施

② グローバルリーダーシッププログラム（仮）の実施について検討

2021年度生から実施予定。グローバル人材育成を推進し、早期の学生のキャリアデザイン、英語での学習環境を通してグローバルリーダーとしてのスキルを向上させる、カリキュラム留学と国内学習の一貫性を高めることなどを目標とする。

③ 学科独自の授業評価の実施を検討

学科独自の授業評価として、学修成果の見える化を目指して RIASEC 連動型ルーブリック評価表の使用を検討、質問項目の再検討をしている。

質疑応答：

・ルーブリックの活用を検討、質問項目の再検討等について、具体的にどのような話し合いが行われているのか？

→コンピテンシーとそのアンカーに対応した4段階ルーブリック評価（30項目案）を検討中である。学生へのヒアリング、ワーディング、学科教員による最終チェックなどを通して作成された評価表を用いて経年で結果を追っていく予定である。このような活動に詳しい先生にもワーキンググループに参加いただき、既に三回ほど開催して検討を進めている。

・社会学部

テーマ「社会学部の将来に向けて～2021年度FD講演会をふまえて～」

発表者：石原社会学科主任

各学科の課題：

社会学科では、授業カリキュラムの改善のためのワーキンググループを立ち上げ。

社会福祉学科では、学科の将来構造を検討するためプロジェクトチームを立ち上げ。

FD講演会は、FD活動費補助を受け両学科で合同開催とした。

【第1回FD講演会】

日時：2021年7月28日（水）11時30分～12時（30分）

テーマ：高校における社会科教育の現状と社会学部との接点

講師：駿台予備学校 日本史科 田部圭史郎氏

<講演会からの示唆>

- ① 高校社会科の再編で22年度新設「歴史総合」(世界史Aと日本史A・近現代中心)への対応が社会学部にとって重要
- ② 社会学部を目指す高校生は、差別(ジェンダー、外国人・貧困・LGBTなどに関連するもの)に関心を持っている
- ③ アカデミックリテラシー・基礎演習等の改善が重要

【第2回FD講演会】

日時：2021年9月22日(水)13時30分～14時30分(60分)

テーマ：高校生の進路および大学選択の現状

～高校生が望む大学のあり方について～

講師：駿台教育研究所 進学情報事業部部長 石原賢一氏

<講演会からの示唆>

- ① 大学進学にあたっては保護者の影響力が拡大しており、最終決定権は保護者が持つ。受験生/保護者の好む大学にはギャップがあり、このギャップを小さくするための広報が重要(保護者は25年前の受験生)
- ② 「Web頼み広報」の見直し

まとめ：FD講演会をふまえた今後の取り組みについて

- ① 「受験生のニーズ」+「各学科の強み」をふまえた授業カリキュラムの検討。
→社会学科では社会調査士資格取得が強みではあるが、資格取得を押し出すだけでなく、どのような能力を身に着けることができるかということをアピールした方が良いのではないか。
- ② 各学科の「アドミッションポリシー」における「求める人物像」を持つ受験生に向けた、学部・学科の特色と魅力の発信。(受験生・保護者・高校等に対する広報活動の充実)
→オンライン授業を全教員が行えるようになったこの機会に、授業のオンラインでの発信(20分ほどの短縮版)が広報にもなるのではないか。

質疑応答

- ・社会学科の授業カリキュラムの改善のためのワーキンググループは、どのように立ち上がったのか。
→(社会学科)初年次授業の改善、2年次以降の授業の改善、社会調査士関連授業の改善を目指して設置された。ワーキンググループでの検討によると、①高等学校での

授業も変化しており、アクティブラーニングが定着しつつあり、特に初年次教育において大学で学ぶ内容と重複している部分があるという学生の声があり、時代に沿った授業を展開する必要があると感じている。② 社会調査士資格関連授業を、学科の重要な特徴である「社会調査」スキルを学ぶ授業として構成していきたい。

・法学部

テーマ「2021年度春学期法学部FD活動報告」

発表者：葛谷先生政治学科主任

・学部共通のFD活動：

① 学期定期試験評価基準・授業総括もしくは定期試験の解説・講評の公表

一定期間内にmanaba上で公開。9割以上の公表率。

② 授業の公開

事前に公開可能な授業についてアンケートを行い、一覧にして共有。

⇒2020年度以降中止していたが、秋学期対面科目にて再開予定。

③ 法学部カリキュラム委員会（JPはオブザーバー参加）

学生の教育効果を高め、学部の教育理念に則した教育体制の構築のために各学期で定期的なカリキュラムの調整を行なっている。

④ 法曹コースにおける相対評価の導入

法曹コース（学部教育3年＋提携しているロースクール2年＋司法実習1年で法曹資格を得られるコース）では相対評価を実施している。今後、学科科目についても公正厳正な成績評価を行う方向へと踏み出すためのパイロット措置。

・法律学科のFD活動：

① 入学前教育講評会（JC・JG共通）

特別入試合格者向けの英語・国語の入学前教育について駿台教育研究所に委託しており、研究所からの報告と質疑応答を実施。対象合格者はプログラムに全員参加させている。

② 法曹コース運営委員会

運営（定期試験、成績評価、提携先法科大学院への推薦、学生との面談や募集等）について協議。

・消費情報環境法学科のFD活動：

① 入学前教育講評会（JU・JG共通）

② 学科会議におけるFD検討

消費者法の教育の在り方について検討。

・政治学科のFD活動：

● **カリキュラム検討委員会（委員長1名＋委員2名）**

学科のカリキュラムの課題を検討し、改善・改革案を学科会議に提起。これまで、1・2年生科目の拡充、ゼミ制度の改革などを実現。オンライン授業に関して、教員・学生向けのアンケート調査も実施した。

・グローバル法学科のFD活動：

① **入学前教育講評会（JU・JC共通）**

② **学科FD会議＋学科会議（FD検討）**

新学科であるため積極的にFD会議を実施している。情報交換を兼ねて、常時行っている。

・今後の課題

With コロナへの対策（とりわけ2020年度・2021年度生への対策・配慮）

オンライン授業の問題や学生の心のケアの問題への対応。

・**国際学部**

テーマ「2021年度春学期における国際学部と国際キャリア学科のFD活動報告」

発表者：合場敬子 国際キャリア学科主任

・**国際学部のFD活動**

● 日時：2021年6月30日

報告者：「インバウンド学生支援プロジェクト」

担当：渡辺恵美子非常勤講師

インバウンド学生支援プロジェクト（以下プロジェクト）から、日本語を第一言語としない、留学生や帰国日本人学生の数が全学的に増えていることが説明された。

プロジェクトで実施した「なんでも相談」では、生活から学習まで多岐にわたる相談が寄せられ、その数が増加していることが明らかになった。

報告を受けて、国際学部でのケアを強化するだけでなく、全学的な支援体制の充実も求めてゆく必要があるとの結論に至った。

・**国際キャリア学科のFD活動**

① 日時：2021年4月2日

国際キャリア学科の新任者3名と国際学科の新任者1名に対して、英語で授業を教える場合の留意点や工夫についてガイダンスを行い、意見を交換した。

② 日時：2021年6月30日、7月30日

学科創設10年目を迎え、本学科のカリキュラムの構造を分かりやすく在学生に示し、効果的な履修を促すためのFD活動を実施した。

1. 学生がカリキュラムの全体像を理解するためのカリキュラムツリー（履修系統図）とカリキュラムの学際的な特徴を把握して履修プランを立てるためのカリキュラムマップ（不平等、アイデンティティの問題などのイシューごとにどのような授業が設置されているかを可視化したもの）を作成中である。
2. 前者は履修要項と学科のWebページに、後者は学科のWebページに掲載を予定している。これらの作成は学科内の自己点検にもつながっており、受験生の本学科のカリキュラム理解にも役立てる予定である。

質疑応答

- ・自己点検につながっているという点について、具体的に伺いたい。

→カリキュラムの見せ方を外部に明示しているかという自己点検の項目があったと記憶しているので、その点とつながっていると考えている。以前から、海外在住の学生から「どのような科目がとれるか知りたい」という要望が寄せられていたが、十分対応できていなかった。他方で、在学生も学科のカリキュラムを十分理解しているか不明だったため、カリキュラムツリーを履修要項に掲載し、教員・学生がカリキュラムを理解しやすいように努めようとしている。FD活動を進めているうちに、自己点検にもつながっていると個人的に感じた。

・心理学部

テーマ：「教職員・学生の教育・研究促進のための調査用プラットフォーム「Qualtrics」の概要・操作方法の講習会」

発表者：金城心理学科主任

学科内のFD活動は心理学部両学科や大学院等との共同開催も含めて6回実施した。下記の講演会の他には、サバティカルを取得した教員からその際の様子や研究について発表いただく機会や教員数名が授業内での工夫や問題点を共有する機会を設けた。

【心理学部FD講演会】

日時：2021年4月28日（水）16：30～18：00 オンライン開催

実施テーマ：教職員・学生の教育・研究促進のための調査用プラットフォーム

「Qualtrics」の概要・操作方法の講習会

講師：早稲田大学理工学部 齊藤俊樹氏

内容：2021年度から学科と大学院で導入した Qualtrics の概要について説明いただいた後、簡単な調査票を Hands on 形式で作成し、その後質疑応答を行った。

※Qualtrics とは：

米国で開発された企業や組織向けアンケート調査のプラットフォーム。調査票の設計、調査の実施、データ管理がしやすい。有料。

質疑応答

- ・ Qualtrics は web 上でアンケートを作成し、その結果がデータとしてダウンロードできるような仕組みか？Microsoft の Forms と比較して使い勝手はどうか？
→質問の作成からデータの入手まで自己完結すること、共同作業ができるという点で導入を決めた。元々心理学の領域では Qualtrics を利用している研究者が多い。
- ・ 心理統計学について FD 活動を行ったとのことだが、どのような内容だったか？
→心理統計を専門とされる川端先生が昨年度サバティカルだったため、そのお話を伺った。
- ・ Qualtrics は有料とのことだが、学科の予算で購入したのか？
→学科予算で購入した。

・教養教育センター

テーマ「吉見俊哉氏講演「大学はもう死んでいる？ポストコロナ時代の大学のゆくえ」

発表者：篠崎教養教育センター主任

【FD 講演会】

日時：2021年9月14日

講演テーマ：大学はもう死んでいる？：ポストコロナ時代の大学のゆくえ

講師：東京大学大学院情報学環教授 吉見俊哉氏

教養教育センターの問題意識：大学は、「教養教育」は、どうあるべきなのか？

概要：1. パンデミックと大学の使命

2. オンラインの爆発と時間の壁の浮上

3. 時間のマネジメントとしての大学改革 今回は3を中心として報告する。

4. 人生で3回大学に入る社会はどう可能？
5. 第三世代の大学は地球人をつくる

パンデミックにより大学がオンラインでの学習が導入されたが、日本の大学における「空間の壁の代わりに時間の壁」があるという課題が可視化された。

教員は研究者／教育者／管理者の3役と務め時間がなく、学生は就活などに追われるだけでなく、諸外国と比較して履修コマ数が多く深く学習する時間がない。

求められる改革としては、《多く／軽く》から《少なく／重く》へシフトする必要がある。学生にとっては少ない科目を徹底的に学ぶ方が効果的であるため、文科省が推奨するクォーター制を導入し、週2コマ×8=2単位とすることで、当たり前を疑う思考方法をより深く学生と学ぶことができるようになる。

手段の有用性・価値反省的学問に、第三の輪としての社会的実践を加えることで、地球人を養成する場所としてポストコロナ時代に生き残れる大学になれるのではないか。

質疑応答

- ・講師の選択の経緯はどのようなものか？
→コロナ禍によって教養教育センターの授業の多くがオンデマンド形式となり、今後の教育について教員の有志で話し合うことがあった。その中で、吉見俊哉氏の紹介があり、今後の教養教育センターについて話し合いの機会を設けたいと思ったため。

- ・大学は多様な科目を設置しているが、吉見俊哉氏はカリキュラム改革として科目を削減する方が良いと考えているのか？
→教養は知識を詰め込むものではなく、考え方を学ぶものであるため削減した方が良いとの話があった。

3. まとめ

【閉会の挨拶】

- ・これからも各学部の取り組みを共有する取り組みを続けていきたい。
- ・今年度から開始したFD活動補助は、春学期のみと期間が短かったとの意見があったため、次回のFD委員会でご意見を頂戴してより良い取り組みにしていきたい。